

# 理科

教科名	第2学年 理科	担当者 藪下 安紀
-----	---------	-----------

## 【 学習到達目標 】

- ・進んで自然の事物や現象に関わり、興味・関心を持つ。
- ・目的を持って実験・観察に取り組み、科学的な見方や考え方を身につけるとともに、実験観察の結果から考察することで、自然事象についての理解を深める。

## 【 学習方法やポイント 】

- ・身の回りで起こる自然現象や動植物等に興味を持ち、授業で学習したことが自分の生活の中でどのように存在し利用されているかを見つけ関心を持つ。
- ・授業の中で聞く時間、板書する時間、考える時間、作業する時間を切り替えて行う。聞くことと考えることに重点を置き、その中で自分なりに疑問を持ち、解決していく過程を大切にする。
- ・実験・観察の目的を理解し、実験結果からなぜそのようなになるかを考察することで、自然事象の理解を深める。
- ・毎時間の小テストで自ら復習する習慣を身につける。

## 【 年間学習計画表 】

学期	単元・題材名	主な学習内容	学習のねらい
	・生物の体のつくりとはたらき	・生物の体をつくるもの	・生物の体の単位である細胞について理解する。

1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 化学変化と原子分子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 植物の体のつくりとはたらき</li> <li>・ 動物の体のつくりとはたらき</li> <li>・ 動物の行動の仕組み</li> <li>・ 物質の成り立ち</li> <li>・ 物質の表し方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 植物のつくりや光合成の仕組みについて、生命維持の観点から総合的に捉える。</li> <li>・ 消化・吸収・排出、呼吸や血液循環などの仕組みについて、生命維持の観点から総合的に捉える。</li> <li>・ ヒトの感覚器官の仕組みや受け取った刺激の伝達について学ぶ。</li> <li>・ ケーキがふくらむ現象と炭酸水素ナトリウムの分解から、それ以上分けることのできない物質があることを理解する。</li> <li>・ 物質が原子・分子からできていることを理解する。</li> <li>・ 原子を表す記号を知る。</li> </ul>
2 学 期		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ さまざまな化学変化</li> <li>・ 化学変化と物質の質量</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原子・分子を用いて化学変化や物質を説明したり、表したりできることを理解する。</li> <li>・ 物質が化合する変化を学習し、酸化還元の反応を理解する。</li> <li>・ 化学変化によって熱の出入りがあることを理解する。</li> <li>・ 化学変化の前後で物質全体の質量が変化しないこと、物質どうしが化合</li> </ul>

	電流とその利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電流の性質</li> <li>・ 電流の正体</li> <li>・ 電流と磁界</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ するときの質量変化は比例関係にあることを理解する。</li> <li>・ 回路による電流・電圧の関係を理解する。</li> <li>・ 静電気が電流と関係があることを見出す。</li> <li>・ 電流の正体が電子の流れであることを理解する。</li> <li>・ 磁石のまわりには磁界ができ、磁界のようすは磁力線で表すことができることを理解する。</li> </ul>
3 学 期	地球の大気と天気 の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地球を取り巻く大気のようにす</li> <li>・ 大気中の水の変化</li> <li>・ 天気の変化と大気の動き</li> <li>・ 大気の動きと日本の四季</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 磁石とコイルなどを使って、電流が磁界から受ける力を調べることができる。</li> <li>・ 霧や雲のでき方、降水などのしくみを知る。</li> <li>・ 飽和水蒸気量や湿度の計算ができるようになる。</li> <li>・ 日本付近での低気圧と高気圧の移動と、それに伴う天気変化を大気の動きの一部である偏西風の影響として捉えて理解する。</li> <li>・ 大陸と海洋の温度差によって生じる大気の動きが、日本の気象に影響を</li> </ul>

			<p>与えることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本付近で盛衰する気団と関連づけながら、日本の天気の特徴としくみを理解する。</li> </ul>
--	--	--	--

### 【評価について】

以下の3つの観点に基づき、学習の様子を総合的に評価します。

- ・知識・技能

自然の事物や現象について基本的な概念や原理、法則を理解する。実験・観察における基本動作を習得し、それらの過程や結果を的確に記録し、それらを考察する。

(定期テスト、実験レポート、実験技能から評価します。)

- ・思考・判断・表現

自然の事物や現象の実験・観察から科学的な見方や考え方を身につけ、自然事象の理解を深める。

(定期テスト、小テスト、実験レポートから評価します。)

- ・主体的に学習に取り組み態度

進んで、自然の事物や現象に関わり、そのことを理解し表現する。

(定期テスト、提出物、日頃の授業への取り組み、「知識・技能」、「思考・判断・表現」の評価項目から評価します。)